



オーストラリア

壮大な自然のもとでの 学びの空間

鄭 露子さん



メルボルン大学の卒業式

2020年7月～2021年2月	〈JASSO海外留学支援制度（学部学位取得型）〉 オーストラリア Trinity College ファンデーションコース
2021年3月～2024年12月	〈JASSO海外留学支援制度（学部学位取得型）〉 オーストラリア（学士号取得） The University of Melbourne Animal Health and Disease
2025年5月～	〈オーストラリア政府からのRTP〉 オーストラリア（博士課程） The University of Melbourne Biosciences
卒業後	卒業後も野生動物保護に関連する研究に携わりたい

未知の可能性に心惹かれて

初めて留学を意識したのは中学2年生の時でした。家族でオーストラリア旅行をした際にNSW州の大学を訪れ、学生たちが授業の休憩時間に自然豊かな環境でのびのびと時間を過ごしている姿に憧れを抱きました。それまで海外大学進学を選択肢として考えたことはなかったものの、多様な自然、そして多様な文化が共存している豊かな空間での学びを通じた自分の成長を想像して心が躍りました。

留学前から始まる新たな発見

留学を決意してからは、2～3年かけてゆっくり現地大学の情報収集を行いました。初めの頃は漠然とScienceに興味があるくらいでしたが、オーストラリアにある大学ほぼ全てのウェブサイトを1つずつチェックし、学費（奨学金の有無）、期間、興味のあるコースのリストを作りました。調べているうちにだんだんと自分に合う進路過程がわかってきて、Animal Healthという今まで聞いたことのなかった獣医系の研究に関連する専攻を発見し、それを動物の固有種が多いこの国でぜひ学んでみたいと強く思うようになりました。

自由をつくる大学生活

学部の授業は講義中心のレクチャーとよりインタラクティブなチュートリアル（2形式に分かれていました）。メルボルン大学は1学期が12週間になっており、あっという間に課題が積み重なってしまうので、履修科目それぞれに割ける時間を管理することが

大変でした。その一方、オーストラリアは自主的に行動を起こせばたくさんの機会が見つかる環境です。教授たちがとても優しく、授業時間外にも質問に答えてくれたりしました。また課外活動もたくさん見つけ、私は野生動物保護のボランティアなどに参加することで、稀少な動物を観察したり、似ている趣味を持った人たちと出会うことができました。

研究の道へ

学部の際に履修した科目がきっかけで、有袋類保護の研究に進むことを決めました。Honoursでは新しい実験スキルをたくさん学べ、失敗をたくさんしても原因を追求する過程に楽しさを見出すことができました。また周りの人たちと過ごす時間が楽しかったこともあり、同じ研究室で博士課程にも続けて進学しました。

留学を経て見つけた心地よい社会のあり方

日々の生活の中で、オーストラリアに深く根付いたegalitarianism（平等主義）を実感する機会がたくさんあり、自然や動物に対する敬意と思いやりにも感心させられることばかりです。忙しい時でも息抜きを忘れずに、大自然をバックドロップに多様な価値観の人と過ごす時間を大切にしています。

オーストラリア留学に大切なこと

オーストラリアは常に陽気な国民性だと思われがちですが、そういった既存概念に捉われずに出会う人それぞれの考え方を理解しようとすること、そして自分を正直に表現することが、現地の人と仲を縮めるために大切です。慣れるまで時間がかかるとは思いますが、根気強く色々なことに挑戦し続けた先に貴重な経験が待っています！



夕日を見に人が集まる丘

私の語学勉強法

自分にあった勉強法を

単語帳というひとたすら文章を読んで使うことがほとんどだと思うのですが、私は単語の横にその意味を表す絵を描いたりして、一瞬で使える場面を思い出せる様に工夫していました。また、英語の番組を見て楽しみながら学ぶことも長続きに繋がりました。まずは日本語字幕で、何回も聞こえてくる単語の発音をコンテキスト付きで自然に学んでいき、だんだんと英語字幕、そして字幕なしに設定を変えていきました。



夜の山で出会った小型有袋類



シンガポール

東南アジアで学ぶ 東南アジア

小倉 志穂さん



学期末の研究進捗発表にて筆者

2014年3月	埼玉県立伊奈学園総合高等学校 普通科芸術系音楽 卒業
2014年4月～2019年3月	東京学芸大学 教育学部中等教育教員養成課程音楽科
2016年7月	〈JASSO海外留学支援制度 (大学院学位取得型)〉 タイ (休学留学) コンケン大学 芸術学部タイ古典音楽科
2021年8月～2023年11月	〈JASSO海外留学支援制度 (大学院学位取得型)〉 シンガポール (修士号取得) National University of Singapore MA in Southeast Asian Studies
2024年9月～	〈JASSO海外留学支援制度 (大学院学位取得型)〉 カナダ (博士課程) The University of British Columbia PhD in Ethnomusicology
卒業後	卒業後は北米もしくは日本にてポストドク或いは助教として就職予定

さらなる学びのための留学

はじめに留学したいと思ったのは高校生のときで、当時は英語を使って、日本で学べないことを学びたいというただ漠然とした思いでした。日本の大学へ進学し、興味のある分野（民族音楽学）に関してある程度基礎的な知識が身についたところで、具体的に何をさらに、かつどのように学びたいか、その上でどのようなキャリアを歩みたいかについて改めて考えました。そこで海外への大学院進学が必要十分であると判断し、この学位取得のための留学に至りました。

修行としての東南アジア研究

私の専門は民族音楽学ですが、音楽以外で且つ研究に必要な知識（例：社会、歴史、文化など）について圧倒的に足りないと、学部時に痛感しました。そこで、修行の意を込めて、修士課程では東南アジア研究を志すことにしました。様々な大学候補がありましたが、やはり東南アジア圏内で東南アジアを学びたいこと、研究対象のタイに近いこと、民族音楽学の先生がいることを鑑みた上でシンガポール国立大学に決めました。資金は就職時に貯めた貯金と奨学金を活用しました。

鬼の量の課題とそこから生まれた友情

課題の量がとにかく鬼でした（現在カナダで博士課程をやっていますが、今振り返ってもやっぱりあの量は鬼でした笑）。学部卒業後、研究とは全く関係のない分野で2年半就職していたという空白も相まって、毎週馴染みのない分野の論文を大量に読み、

毎週プレゼンを作り録画し、毎週エッセーを書き、さらにクラスメイトのプレゼンを見てから授業に臨むというのはかなりハードでしたが、その分貴重な修行になったと今では思います。その中で支えとなったのはやはりクラスメイトの存在でした。昼前にみんなでジムに行き、昼から日付が変わるまで大学で黙々と課題に取り組む。一人だったら絶対に乗り越えられないようなことでも、誰かと一緒に取り組めば自分はいくらでもできるんだ！と自信をつけさせてもらえました。



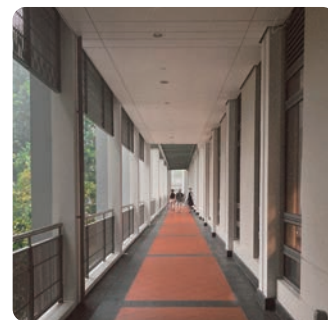
友人とシンガポール名物ナシレマ (左)

再び民族音楽学へ：カナダへ博士課程進学

修士課程で東南アジア研究に進むと決めた時、同時に博士では必ず民族音楽学に戻ると決めていたので、シンガポール国立大学卒業後はカナダのプリティッシュコロンビア大学民族音楽学博士課程にて進学しました。修士課程で東南アジアについてはある程度学べたので、博士課程では特に音楽分析に特化した大学を選びました。

やりたいことの再確認

タフで時に辛い留学生活でしたが、その中でも学会発表や、様々なセミナーにて交友を広げていくと、まだまだ自分のやりたいことはここにあると感じます。自分が本当にやりたいことはこれなのか、という問いに対して、今ではより明確に答えることができるようになったのが、この留学での一番の収穫だと思います。



シンガポール国立大学内

シンガポール留学という道

シンガポール留学の醍醐味はアジアと欧米の良いところ取りだと思います。英語圏ならではの欧米をはじめとした世界各地への研究アクセス、東南アジアならではの研究土壌、食のバラエティーと過ごしやすさ。加えて治安の良さもあり、安心した環境で勉学に励むことができます。勉学の挑戦は選べませんが、環境は選べます。皆様の留学が実り豊かなものになりますように！

私の語学勉強法

語彙力の強化

留学前はひたすら語彙力の強化に努めました。IELTSの語彙はもちろん、研究分野の語彙などを中心に例文と共にノートに書いてインプットしました。また受験時の面接を見越して口頭でのアウトプットもできるようにしました。それでも留学開始後、語彙力不足に苦しんだので、やりすぎるくらい語彙力を増やすに越したことはないと思います。